

佳作

大好きなチビへ

茨城県 日立市立助川小学校五年 古川 真帆

ある日とつ然、私の家にやって来て、二、三日後には、すっかり私の家のネコになっていたチビ。

家に来たばかりのころは、本当に小さくて、キツチンペーパーの箱に入るくらいの大きさだったね。

小さいころはいたずら好きで、お兄ちゃんのイヤホンのコードにからまって遊んで、コードを引きちぎっておこられていたっけ。ひもで遊んでくれていたと思うていたんだよね。

自分で屋根の上に登っては、下りられなくなって、助けを求めて鳴いていたね。屋根から下ろしてあげると、うれしくてゴロゴロのどを鳴らしていたっけ。

お兄ちゃんの事が大好きで、いつもお兄ちゃんのそばでねていたね。お兄ちゃんのまくらカバーを新しくした時には、まくらを自分のふとんにしていたね。お兄ちゃんが

「チビにまくら取られてねられない。」

と言うから、お母さんがふわふわの毛布をとなりにしたけど、なんだかちがうって顔をして、やっぱお兄ちゃんのまくらの上でねていたね。

とってもおりこうで、お兄ちゃんが出かける時間になっても起きない時、お母さんがそばでねていたチビに

「チビ、起こして。」

って言ったたら、いたくないようにトントンって起こしていたよね。

ネコは人間よりも、とても早いスピードで成長するから、あつという間に大人になっていったんだね。あんなにしていたいたずらもする事がなくなって、いつの間にかイヤホンに見向きもしなくなっていたね。コードにからまって遊んでいたころがなつかしいと思ったよ。

ある朝、いつもと同じようにお母さんに

「気を付けてね。」

って言われて出かけて行ったチビ。その日の夜になっても帰って来なかった。前にも四、五日ぐらい帰って来ない時があったから、またもう少ししたら帰って来ると思っていたよ。でも一週間たっても、二

週間たっても帰って来なかったね。みんなでたくさんさがしたんだよ。

どこかの車にでも乗ってしまっ、遠くまで行ってしまったのかな。

他のネコに追いかけて、にげて帰れなくなっってしまったのかな。

他の家のネコとして幸せにくらしているのかな。

それとも、天国で私達の事、見てるのかな。

自分の帰る家を忘れてしまったのかな。

帰る家を思い出したら、いつでも帰っておいでね、チビ。